

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第269回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

市川塩浜駅は明海大学のある新浦安駅の隣駅だ。都心方面と反対側で、一度も行ったことがない隣駅に降りた。新浦安同様、のどかな住宅地だろうと考えていた

が、駅近で大きな工作物を見つけた。誰もが知る横断歩道橋だ(写真)。

同駅周辺は工場や倉庫が立地していて物流が活発で、交通量が多い。車の流れを止めずに歩行者の横断が可能な歩道橋は合理的である。しかし、2つの問題を感じる。

1つ目は、安全の意味である。歩



薮島 三弥
不動産学部2年

超高齢化社会の横断歩道

人本位の仕組みで問題解決

道橋は歩行者の交通安全のために設置するが、超高齢化社会の日本では8人に1人は75歳以上である。エレベーターがついた歩道橋もあるが、ないものも多い。階段で昇降する歩道橋は高齢者には使いづらく、利用できない高齢者も多い。特に、建物

の1階半の高さの下り階段は問題で、転落の危険も大きい。安全が目的の歩道橋が安全を脅かすという逆説がある。

現代の車社会には煽り運転や逆走など運転者に起因する問題が存在する。車や道路の性能向上と関係する

2つ目は、景観との調和である。まず、人が渡るには余りにも巨大な鉄塊で、威圧感がある。同じく人が歩く前方のマシンの廊下と比較すると一目瞭然だ。次に、大きな鉄塊が三方枠となって空間の広がりとお興行を遮断する。最近の幹線道路は電線が地中化されて空の広がりが大

きいが、歩道橋はその効果を無にする。更に、塗装が劣化して発錆し、工夫に乏しい配色と相まって景観形成を阻害する。

2つの問題を考えると、超高齢社会で歩道橋が有用か、に行きつく。高齢者が使えず、危険であれば有用ではない。他方、ロボット、電動カー

トやドローンなどの技術の進展もある。有効利用のために、ロボットやカー

ト等の補助装置を備える方法もあるが、財政負担を考えれば持続可能性が疑問だ。

と考えるが、防止するには運転者が常に冷静に車を制御する「遺伝子」を獲得することが必要だ。そのため、横断歩道手前で停止義務を実践することを繰り返すことが有効と考

高齢者に使いづらい歩道橋



【教員のコメント】

高齢者居住で注目のCCRCは、住み慣れた地域に継続居住して老後生活の充実を目指す。高度経済成長、人口増加を背景とし、効率優先の社会ストックがそれを拒絶する。課題解決はハードだけでは足りず、ソフトの組み合わせが不可避だ。